

令和 6 年 度 事 業 報 告

(令和6年4月1日から令和7年3月31日まで)

I 当法人の概況

1 役員等に関する事項

(1) 理事及び監事に関する事項

理 事

定 数 9人以上13人以内（会長、副会長及び専務理事を含む）

任 期 選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時まで

現在数 常勤1人、非常勤9人、計10人

監 事

定 数 2人

任 期 選任後4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時まで

現在数 常勤なし、非常勤2人、計2人

(令和7年3月31日現在)

職 名	氏 名	任 期	常勤 非常勤	報酬等	所 属
会 長	山 谷 吉 宏	R 6 . 6 . 21～ 令和7年度定時評議員会 終結の時まで	非常勤	なし	北海道森と緑の会 理事長
副会長	山 谷 敬 三 郎	R 5 . 6 . 26～ 令和7年度定時評議員会 終結の時まで	〃	〃	北翔大学 学長
理 事	小 泉 寧	〃	〃	〃	北海道中学校長会 対策部幹事
〃	松 浦 宣 仁	〃	〃	〃	北海道PTA連合会 事務局長
〃	中 畑 雅 幸	〃	〃	〃	北海道商工会連合会 事務局長
〃	佐 藤 宏 光	R 6 . 6 . 21～ 令和7年度定時評議員会 終結の時まで	〃	〃	北海道新聞社 編集局くらし報道部長
〃	山 田 園 子	R 5 . 6 . 26～ 令和7年度定時評議員会 終結の時まで	〃	〃	新得町子ども会 理事

職名	氏名	任期	常勤 非常勤	報酬等	所属
理事	早川 日出利	R 5. 6. 26～ 令和7年度定時評議員会 終結の時まで	非常勤	なし	苫前町 子ども育成連絡協議会 会長
〃	新井田 寛	〃	〃	〃	札幌市 中央区青少年育成委員会 連絡協議会 議長
専務理事	東田 俊和	〃	常勤	〃	北海道青少年育成協会 事務局長
監事	川村 美栄子	R 4. 6. 21～ 令和7年度定時評議員会 終結の時まで	非常勤	〃	税理士
〃	酒元 辰也	R 3. 6. 18～ 令和7年度定時評議員会 終結の時まで	〃	〃	北海道歴史文化財団 代表理事

(2) 評議員に関する事項

定数 9人以上13人以内

任期 選任後4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時まで

現在数 常勤なし、非常勤9人、計9人

(令和7年3月31日現在)

職名	氏名	任期	常勤 非常勤	報酬等	所属
評議員	俵 英生	R 6. 6. 21～ 令和7年度定時評議員会 終結の時まで	非常勤	なし	北海道高等学校長協会
〃	田邊 芳明	R 5. 6. 26～ 令和7年度定時評議員会 終結の時まで	〃	〃	北海道小学校長会 事務局長
〃	出井 浩義	R 3. 6. 18～ 令和7年度定時評議員会 終結の時まで	〃	〃	北海道市長会 事務局長
〃	山内 康弘	〃	〃	〃	北海道町村会 事務局長
〃	木村 謙治	〃	〃	〃	北海道子ども会育成連合会 常務理事兼事務局長

職名	氏名	任期	常勤 非常勤	報酬等	所属
評議員	野内 吉徳	R 5. 6. 26～ 令和7年度定時評議員会 終結の時まで	非常勤	なし	日本ボーイスカウト 北海道連盟 常任理事
〃	佐藤 隆久	R 6. 6. 21～ 令和7年度定時評議員会 終結の時まで	〃	〃	北海道社会福祉協議会 常務理事
〃	時田 昭子	R 4. 6. 21～ 令和7年度定時評議員会 終結の時まで	〃	〃	北海道女性団体連絡協議会 常任理事
〃	大橋 俊忠	R 3. 6. 18～ 令和7年度定時評議員会 終結の時まで	〃	〃	北海道経済連合会 理事事務局長

2 賛助会員に関する事項

(令和7年3月31日現在)

種類	前年度末	当年度末	増減
普通賛助会員 個人	44 人	47 人	3 人
普通賛助会員 青少年関係団体	51 団体	51 団体	0 団体
特別賛助会員	143 団体	142 団体	△1 団体
合計	238 人・団体	240 人・団体	2 人・団体

3 職員に関する事項

現在数 5名

(令和7年3月31日現在)

役職	氏名	常勤・非常勤の別
事務局次長	沼田 祐司	常勤
主査	竹本 郁子	〃
主査	福田 拓哉	〃
専門指導員	山田 聡	〃
地域活動支援員	齋藤 博美	〃

II 事業に関する事項

1 令和6年度事業の実施状況

別添のとおり

2 役員会等に関する事項

(1) 理事会

開催年月日	決議事項	結果
令和6年6月6日	① 令和5年度 事業報告について ② 令和5年度 決算について（監査報告） ③ 評議員会の開催及び目的である事項について	承認 承認 承認
令和6年6月21日 （書面理事会）	① 会長の選定について	承認
令和7年3月21日	① 令和7年度 事業計画（案）について ② 令和7年度 予算（案）について ③ 令和7年度 資金調達及び設備投資の見込みについて ④ 令和7年度 資金管理運用執行方針及び計画（案）について ⑤ 北海道青少年基金設置規程の一部改正について	承認 承認 承認 承認 承認

(2) 評議員会

開催年月日	決議事項	結果
令和6年6月21日 （書面評議員会）	① 令和5年度決算について（監査報告） ② 理事の補充選任について ③ 評議員の補充選任について	承認 承認 承認

(3) 基金管理運営委員会

開催年月日	内 容
令和6年8月9日	① 令和6年度 青少年及び青少年団体・グループ並びに 育成者・指導者顕彰の決定について ② 令和6年度 北海道青少年基金運用益交付団体の決定について

3 所管庁への届出事項

届出年月日	届出事項
令和6年6月24日	令和5年度 事業状況報告等の提出
令和6年7月17日	理事・評議員変更の届出
令和7年3月27日	令和7年度 事業計画等の提出

4 行政機関から受けた監督上の処分又は指導に関する事項

検査年月日	検査内容	処分または指導
令和6年4月15日	令和5年度補助金事業実績報告に係る現地調査 (北海道保健福祉部)	なし

5 事業報告の附属明細書

「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」に該当すると思われる事項は特にありません。

II-1. 令和6年度事業の実施状況

国では、令和5年4月に「こども家庭庁」が発足し、「こどもまんなか社会」の実現に向け、こども大綱の決定や各都道府県・市町村による計画の策定が進められるなど、青少年の健全育成を巡る行政の施策は、大きな転換期を迎えました。少子高齢化や人口減少などの社会問題が深刻化する中で、子どもや若者を誰一人取り残すことのない健やかな成長には、行政や関係機関・団体などによる切れ目のない包括的な支援が求められています。

このため、当協会ではすべての子ども・若者が健やかに自分らしく成長できるよう、北海道や関係機関・団体等と緊密に連携し、地域の状況などを踏まえつつ、青少年の健全育成に向けた事業の推進に努めました。

令和6年度における事業の実施状況は、次のとおりです。

1 青少年育成住民運動の促進

運動を効果的に推進するため、全道に青少年育成運動推進指導員を配置し、地域関係者との合同会議を開催するなどして、青少年育成運動についての共通理解を深め、関係団体の連携による地域ぐるみの運動の促進に努めた。

(1) 北海道青少年育成運動推進指導員の配置

○ 定 員 238人

《配置の内訳》札幌市10人、旭川市・函館市は各3人、小樽市・苫小牧市・帯広市・釧路市は各2人、その他の市及び町村各1人
(総合)振興局(青少年指導員、青年代表)、教育局(社会教育主事)各1人

○ 活 動

- ア 青少年育成運動(地域行事・活動に参加)
- イ 地域団体等の事業を実施
- ウ 非行防止、環境浄化(巡回パトロールなど)
- エ 行政との連携(市町村行事等に参加)
- オ 当協会の事業推進(住民への情報提供等)

(2) 青少年育成地域合同会議の開催(北海道との共催)

青少年育成運動推進指導員や市町村青少年行政担当者、青少年育成団体関係者等が出席して、(総合)振興局毎に道内14箇所で開催した。

○ 期 日 令和6年5月14日(火)～6月14日(金)

○ 参加者 371名(総計)

○ 内 容

- ア 北海道の青少年育成施策の推進について
- イ 道内の少年非行の概況について
- ウ 教育行政に関する情報提供
- エ 当協会の活動方針及び事業計画について
- オ 意見交換など



▲管内関係者による地域合同会議
(石狩振興局)

(3) 市町村民会議等の連携強化

地域の運動推進の中核である青少年育成市町村民会議等への啓発資材や機関誌等の配布により情報提供を行い、連携の強化や運動の支援を図った。

(4) 青少年育成地域懇話会の開催

青少年に関する諸問題について、学識経験者と地域の活動指導者等による懇話会を市町村民会議との共催で開催した。

選定したテーマに沿った講話と参加者による意見交換を通して、地域の現状や課題解決への取組等について、共通理解を深めた。

標茶町 [共催：標茶町青少年健全育成推進連絡協議会、標茶町生徒指導連絡協議会]

- 期 日 令和6年10月24日(木)
- 場 所 標茶町開発センター
- テーマ 「不登校支援を考える」
～子どもの目線、保護者の目線、関係機関の目線から～
- 参加者 地元青少年育成関係者 71名
- 内 容
 - ・講話：「保護者の目線、学校の目線、関係機関の目線から」
～事例から見るこども家庭支援センターと不登校支援～
講師：釧路こども家庭支援センター センター長 笠井 雄二 氏
 - ・意見交流テーマ：「今の私にできることは何か？」
～参加者それぞれの立場から～
 - ・コーディネーター：北海道教育庁生涯学習推進局社会教育課
ネイパル厚岸グループ社会教育主事 成田 悠希 氏

知内町 [共催：知内町青少年育成町民会議]

- 期 日 令和7年2月17日(月)
- 場 所 知内町中央公民館
- テーマ 「子どもの豊かな心を育てるために」
～子どもの伸ばし方～
- 参加者 地元青少年育成関係者 36名
- 内 容
 - ・講話：「ポジティブ行動支援で広がる子どもの可能性」
～効果的なほめ方の実践～
 - ・講師：北海道教育大学教職大学院 教授 杉本 任士 氏
 - ・意見交流テーマ：「学校・家庭・地域でできること」
 - ・コーディネーター：北海道教育庁渡島教育局教育支援課
社会教育指導班社会教育主事 松田 夕紀 氏



▲地元関係者による意見交流
(知内町)

2 青少年を社会全体で育成・支援する環境づくりの推進

青少年の健全な育成について社会全体が取り組む環境づくりを進めるため、北海道青少年育成大会などを開催し、青少年問題についての共通理解を深めた。

(1) 北海道青少年育成大会の開催（北海道、国立青少年教育振興機構との共催）

全道の青少年育成関係者が一堂に会し、活動功労者の表彰、基調講演、活動発表や「少年の主張」全道大会を行い、青少年育成活動の一層の推進をアピールした。

- 日 時 令和6年9月6日(金)
- 開催場所 道民活動センター（かでの2・7）かでのアスビックホール
- 参加者 400名（関係者含む）

○ 内 容

- ・令和6年度北海道社会貢献賞（青少年健全育成成功労者）表彰式

受賞者：松村 和彦 氏（札幌市）ほか13名

- ・令和6年度北海道青少年基金事業顕彰表彰式

受賞者：太平南剣友会（札幌市）

厚真けん玉クラブ（厚真町）

- ・令和6年度「少年の主張」全道大会

審査結果発表及び表彰、最優秀賞及び優秀賞の発表
後援の「北海道コンサドーレ札幌」から副賞の贈呈
《最優秀賞》

受賞者：（石狩代表）恵庭市立恵み野中学校

3年 数馬 灯里 さん

テーマ：「未来に咲く今」

- ・基調講演

演 題：「先生が求める答えを提供する若者たち」

－いい子症候群の実像－

講 師：金沢大学教授／東京大学客員教授

金間 大介 氏

- ・活動発表

発表題：「ブレイキン」パフォーマンス

発表者：北海道ブレイクダンス協会（道内3選手等）

大会終了後、「少年の主張」全道大会各地区代表者の発表をホームページで公開し、広く情報発信した。



▲北海道青少年育成大会
（「少年の主張」全道大会）



▲育成大会 基調講演

(2) 青少年育成運動活性化研究協議会の開催

青少年育成運動推進指導員や青少年育成関係者、ボランティアの参集を得て開催した。

基調講演と3分科会のうち1つをオンライン併用のハイブリッド方式で実施し、研究協議や意見交換等を行い、直面する諸問題や地域での活動事例について学び、指導者層の育成など今後の地域活動の充実・強化に役立てることができた。

○ 期 日 令和6年11月8日(金)

○ 場 所 道民活動センター(かでの2・7)大会議室ほか オンライン併用

○ 参加者 北海道青少年育成運動推進指導員、青少年育成関係機関・団体関係者、(総合)振興局・市町村関係職員、青少年補導員、更生保護関係者等 計150名

○ 内 容

- ・基調講演

演 題：子どもの「やりたい、知りたい」を大切に －地域とともに歩む学校－

講 師：学校法人 学びのさと自由が丘学園

理事長 細田 孝哉 氏

- ・第1分科会

テーマ：「子どもが中心となる地域社会を目指して」

話題提供者：安平町教育委員会学校教育グループ

主査 笹山 陽平 氏

コーディネーター：北海道教育庁空知教育局教育支援課

社会教育主事 斉藤 萌 氏



▲分科会 グループ発表

・第2分科会

テーマ：「困難を有する子ども・若者が求める支援」

話題提供者：NPO法人レター・ポストフレンド相談ネットワーク

理事長 田中 敦 氏

コーディネーター：北海道教育庁石狩教育局教育支援課

社会教育主事 只野 浩太 氏

・第3分科会（オンライン開催）

テーマ：「多様な価値観・考え方を尊重する」

話題提供者：さっぽろレインボープライド実行委員会

実行委員長 柳谷 由美 氏

コーディネーター：北海道教育庁生涯学習推進局社会教育課

社会教育主事 川崎 亜蘭 氏

(3) 明るい家庭づくり道民運動の推進

様々な啓発資料等の配布、「家族ふれあい優待制度」の広報や絵画コンクールの実施などにより、平成12年度に制定した「道民家庭の日（毎月第3日曜日）」の普及啓発に努め、全ての道民が青少年を支え、育む社会環境づくりを進めた。

○ 「道民家庭の日」の普及啓発

・道民家庭の日のイメージキャラクター『ほーほーくん』が参加し、道と共催の街頭啓発を札幌駅コンコースで行った。（実施日：令和6年4月～7年3月の第3金曜日）

また、児童写生会や北海道矯正展、さらにお寺を拠点に市内の団体が実施する寺子屋に出向き、地域のこどもや親子連れ、来場者と『ほーほーくん』がふれあうなど、啓発活動を行った。

（児童写生会：令和6年7月6日 場所：北海道開拓の村）

（北海道矯正展：令和6年10月6日 場所：札幌刑務所）

（寺子屋：令和7年3月3日 場所：北海寺）

・道内の市町村や小・中学校、児童館、関係機関・団体などにリーフレット等を配付した他、各事業やイベント等で活用した。

〔啓発リーフレット(50,000部)、クリアファイル(2,000部)、啓発シール(2,000枚)、自由帳(2,000冊)、ゴム風船(2,000個)、ポケットティッシュ(18,000個)など〕

○ 家族ふれあい優待制度の普及促進

道民家庭の日に特別価格等でのサービスを提供いただく、「家族ふれあい優待制度」の啓発資料の配付や各振興局、市町村、推進指導員からの情報提供、街頭啓発などPRに努め、「足寄動物化石博物館」など新たに協賛店に加入した施設もあったが、物価上昇による影響もあり大手飲食チェーン店が脱会するなど、協賛店数は減少となった。《協賛店・施設》

ホテル・旅館、飲食店、博物館・水族館・美術館、テーマパーク、ボウリング場、スーパーマーケット・商店、キャンプ場等 計 251ヶ所（前年度 320ヶ所）

○ 「道民家庭の日」絵画コンクール2024の実施

全道の小・中学校児童・生徒からの応募作品を審査し、36点の入選作品を決定して表彰するとともに入賞作品展を開催した。また、キューピー(株)札幌支店の協力により、出賞・副賞・参加賞の贈呈があった。【応募総数：65校／249点】



▲寺子屋でこども達とふれあう

《最優秀賞》

小学生の部

受賞者：苫小牧市立清水小学校6年 尾崎 帆波 さん
題名：「家族で湖、夏の思い出。」

中学生の部

受賞者：北海道教育大学附属旭川中学校2年 富山 美七海 さん
題名：「弟と堤防で見た花火」



▲小学生の部 最優秀賞



▲中学生の部 最優秀賞

(以下、各部門毎に入選作品を決定)

- ・優秀賞 各1点 ・特別賞（キューピー賞）各1点
- ・優良賞 各3点 ・佳作 24点 ・学校賞 3校

○ 絵画コンクール入賞作品展の開催

- ・札幌駅前通地下広場（チ・カ・ホ）

（実施日：令和6年11月4日 入場者数：220名）

- ・（総合）振興局庁舎等での巡回展示

期 間：令和6年11月18日～令和7年2月28日

開催地：上川、十勝、オホーツク、渡島、胆振、空知

6（総合）振興局

- ・北海道新聞社が発行する「さっぽろ10区（トーク）」に「道民家庭の日」絵画コンクール2024入賞作品展（チ・カ・ホ）の開催予定を掲載した。



▲絵画コンクール入賞作品展(チカホ)

(4) 青少年を非行・被害から守る環境づくりの推進

7月の「青少年の非行・被害防止全国強調月間」(国)及び「青少年の非行防止道民総ぐるみ運動強調月間」(道)、11月の「秋のこどもまんなか月間」(国)の一環として、“社会を明るくする運動”北海道推進委員会や北海道警察、北海道教育委員会等と街頭啓発活動を実施した。

○ 街頭啓発活動

啓発資材として「道民家庭の日」ポケットティッシュを各（総合）振興局に配付し、非行防止活動の推進に努めた。（配付部数） 10,000 個
また、関連事業と連動させながら、非行防止のための諸活動を推進した。

① 「夏・冬の暴力追放運動」街頭啓発の実施（共催 北海道暴力追放センター）

- ・日 時：令和6年7月、8月及び12月 計4回
- ・実施場所：地下鉄駅前等（札幌市内）

② 飲酒・喫煙防止活動の促進

ホームページに飲酒や喫煙がもたらす健康の問題に関する情報を掲載し、20歳未満の飲酒・喫煙防止活動の一層の充実を図った。

③ 有害情報から青少年を守る活動の推進

北海道や学校関係者、情報通信企業などで構成する北海道青少年有害情報対策実行委員会に参加し、インターネットや携帯電話の利用による有害情報から青少年を守るための啓発活動を行った。

(5) 「北海道青少年のための200冊」の選定・推奨

青少年に優良図書情報を提供して読書を普及させるため、北海道学校図書館協会、北海道読書推進運動協議会の協力を得て、「北海道青少年のための200冊」を選定し、図書目録や啓発ポスターを作成して、全道の幼稚園や学校、図書館など関係機関に配付するとともに、ホームページに掲載するなど、良書の情報提供に努めた。

本事業は、出版社47社に協賛をいただいて運営することができた。

(配付部数) ・令和6年度図書目録及び新選図書目録 各10,000部
・200冊啓発ポスター 3,000部

なお、「200冊」は、北海道学校図書館協会及び毎日新聞社が主催する、『読書感想画中央コンクール』の対象図書として紹介された。

(6) 青少年育成関係団体懇談会の開催

困難を抱える子ども・若者を支援する活動の現状や課題についての話題提供、青少年育成関係団体・機関等の活動報告を行い、相互の活動の連携協力や今後の取組の効果的な推進についての共通理解を深めた。

- 開催日時 令和7年2月7日(金)
- 開催方法 ハイブリット開催(会場・オンライン)
- 参加団体 10団体・4機関
- 内 容
 - ・話題提供
話題:「地域とのつながりが子どもたちを育む」
一なまらツナガル、トカイナカー
 - 説明: NPO法人E-LINK代表理事 日向 洋喜 氏
 - ・活動報告と意見交換、情報提供



▲各団体からの活動報告や情報交換

(7) 広報啓発活動の推進

青少年育成運動への理解と関心を高めるため、機関誌やポスターなどの配布やホームページ等を活用した広報活動を行った。

- ・各種事業の報告や関係機関等の活動状況などを掲載する機関誌「育む」を年2回発行した。(配付部数) 1,800部(各回)
- ・「道民家庭の日」絵画コンクール入賞作品12点を掲載した2025年カレンダーを作成し、市町村、学校、関係団体等に配付した。(配付部数) 3,900部
- ・各種大会や研修会など行事の案内や実施結果、各種交付金や絵画コンクール作品募集等の情報、出版物の電子版掲載などについて、ホームページやSNS(LINE)を活用し、幅広い層への情報発信に努めた。



▲機関誌「育む」の発行

○ 講師派遣の実施

市町村や育成団体等の要請を受けて研修会に専門指導員を派遣し、地域での課題等に係る講演を行い、課題解決に向けた取組の理解を深めた。

(派遣回数: 4回/総参加者104名)

派遣先

- ・札幌市南円山地区の安全・安心なまちづくりを考える会
(札幌市／参加者30名)
- ・芽室町青少年健全育成協議会 第2回生徒指導交流会
(芽室町／参加者20名)
- ・後志管内青少年育成運動推進指導員協議会研修会
(蘭越町／参加者24名)
- ・美幌町青少年育成指導員等研修会
(美幌町／参加者30名)



▲講師派遣
(札幌市南円山地区)

3 青少年の主体的な社会参加・体験活動の促進

青少年が健やかに成長し自立した社会人になるよう、青少年の地域での実践活動を支援し、青少年の社会参加・体験活動を促進した。

(1) 北海道青少年基金事業の推進

青少年の主体的社会参加を図るため、「北海道青少年基金」を造成し、その運用益を活用して青少年団体等の活動を支援した。

○ 基金の造成

北海道や自衛隊、市町村などの関係機関への協力要請、新成人記念募金、施設や交付団体事業における募金箱の設置依頼、当協会の行事で募金の呼び掛けを行った。

令和6年度の基金造成実績 募金実績額：92万7,550円
基金累計額：3億4,014万5,618円

○ 交付事業

青少年団体・グループ等が行う体験活動などに対し、交付金を交付した。

令和6年度交付団体数 43団体 (交付総額 264万7千円)

○ 顕彰事業

優れた活動を展開している団体を顕彰した。

- ・太平南剣友会 (札幌市)
- ・厚真けん玉クラブ (厚真町)



▲こどもの体験活動を支援する交付事業

(2) 北海道青年活動元気づくりプロジェクト事業の推進

地域の青年が地域づくりに主体的に参画し、その活動を通して地域活動の担い手として成長することをめざす「北海道青年活動元気づくりプロジェクト」事業を実施し青年団体等が行う活動に交付金を交付し、活動の推進を図った。

令和6年度交付団体数 4団体 (交付総額 55万円)

交付青年団体グループ名・事業名

○ 団体名：大空スポーツ・レクリエーション部

事業名：大空町初のモルック大会を開催

内容：インクルーシブスポーツである「モルック」をツールに、町内で初のモルック大会を開催し、子どもやお年寄りの世代間交流や地域の新たなコミュニティーが生まれ、町全体の活性化につながった。



▲地域交流やまちの活性化を進める活動

- 団体名：さっぽろレインボープライド実行委員会
事業名：北海道内における性的マイノリティ当事者の抱える諸問題の解消に関する事業
内 容：LGBTQを含む性的マイノリティに対する差別や偏見の解消を目的に、さっぽろレインボープライドの開催や教育機関等へ講座に出向き、LGBTQが身近な存在であることの発信や働きかけをし、諸問題の解消につながった。
- 団体名：浜益わかもん会
事業名：釣り堀Remodelingプロジェクト
内 容：廃業した釣り堀のリモデリング活動（再構築）を通じて、環境保全やローカルSDGs、浜益の歴史について学んだほか、体感する場づくりをする中で地域住民とのつながりや、若者の成長、関係人口の創出となるきっかけ作りとなった。
- 団体名：大門学生祭復活プロジェクト
事業名：大門学生祭の復活
内 容：2019年まで行われていた函館市内の大学生による「大門学生祭」を復活させるため、「プレ大門学生祭」を開催し、商店街や地域住民の協力により、ステージ発表や模擬店の出店など交流の場を提供し、町の活性化を生み出した。

4 国や中央団体等との連携

関係機関・団体の事業を共催により実施するとともに、関係団体の事業に協力した。

(1) 表彰事業への協力

全国青少年育成県民会議連合会の表彰

長年の青少年育成活動が認められ、青少年育成運動推進指導員の松井 弘 氏（網走市）が「青少年指導者等顕彰」を受賞した。



(2) 読書を普及する活動への協力

北海道学校図書館協会及び毎日新聞社が主催する青少年読書感想文全道コンクール・北海道指定図書読書感想文コンクールに「協会長賞(2名)」を出賞し、青少年の読書の普及活動を支援した。